

覽書

市谷座の周辺

會員 池田 田 作

大正十五年、私は大分県立実業補習学校教員養成所の生徒であった。当時下宿の老人(三重野)の話から、市谷座のことを知った。

座長は下堅田市谷の渡辺久米吉という人、たくさんの役者をつれて、農閑期になると三重町によく来て開演して居たのである。一座の中には伊藤万平、河野藤一、田村市蔵といつた上手な役者が居て、皆さんからたいへん賞賛にされていた由。老人は淨瑠璃の名人で私に教えてくれた。

堅田に帰つて市谷座のことを話したら、明治の頃には芝居がばやつて、正月には村の青年達が集つて稽古にはげんだとのことである。

私が下堅田の補習学校に勤務していた頃も、城八幡神社のお祭には、伊藤万平さんや河野藤一さんが中心になつて、芝居愛好者にせりふや振付けなどを教え、村人を楽しませてくれた。

在郷軍人分会長であつた今山清治さんが、菅原伝授手習鑑に出演して喝采をばくし、村役場の小野一男さんが朝顔日記の深雪に出演して好評を得て、今だに話題を残している。

市谷にゆかりのある八十九才の老人の話によれば、正月の頃は若いものが寄ると芝居の話がはずみ、せりふや身振りを楽しんでいたりとのこと。藤一さんの親戚になるこの老人の話では、藤一さんは昨年他界した由、ま

ことに惜しいことをしたものだ。  
市谷の渡辺綱一さん方は、今でも芝居の衣裳が保管されてゐる由。

私は今年の九月八日に伊藤万平さん宅に、昔話をききたいと思ひ、泥谷の同家を訪問したが、伊藤さんはすでになく、幽明界を異にしていて目的を達することは出来なかつた。

そこで私は、今や昔昭和二十二年波越部落の林道の竣工落成記念の芝居に、伊藤さんも河野さんの指導により、頭浴座に出演した教え子の招待に志し、金一封を用意して出かけたことを思い出し、波越部落に足と伸ばし、その時の出演者から、「近江源氏」や「義経千本桜」の稽古のようすを聞いた。

こんなことが、かつて評判をとつていた市谷座の名残りであろうか。惜しいものがほろんでしまつた。  
(かわり)

美しい佐伯の山や海を守ろう

——公害追放はみんなの力で——

特に目に余るものは、興へによる佐伯湾の汚濁である。誰かが、何とかしてくれろたらうが、駄目である。

産業公害に限らない。歴史を数々秘めている故里の山や川、その美しさをとりかえし、いつまでも昔のままの住みよい郷土として守り抜くこと、わが史談会が人後におちてはならない。

月明の夜、龍江に舟を泛べた昔の通りは、いくまいが、せめて鰻魚釣の楽しみもある、春先には白魚の潮はる番匠川になつてくらいたい。

入会者募集中、入会金は後日でも可、はがき又は電話でお中意下さい。  
(井柴)